

平成29年度東部地区道徳教育研究協議会
～道徳の教科化に向けて～



平成29年11月24日
加須市立加須平成中学校
教頭 藤間 隆子

教師として

【教育基本法】

第1条 教育の目的

教育は、人格の完成を目指し、……

第2条 教育の目標

豊かな情操と道徳心を培う、自主自律
生命及び自然を尊重する精神……

【学校教育法】

第21条 義務教育の目標



学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

※高校教育については、歳末な事実的知識の増記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

道徳の「特別の教科」化(学習指導要領の改正)

教育再生実行会議の提言や中央教育審議会の答申を踏まえ、学習指導要領の一部を改正し、「道徳の時間」(小・中学校で週1時間)を「**特別の教科 道徳**」(「**道徳科**」)(引き続き週1時間)として**新たに位置付ける**(平成27年3月27日)

【特別の教科】

道徳は、**学級担任が担当**することが望ましいと考えられること、**数値などによる評価はなじまない**と考えられることなど、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という新たな枠組みを設け、位置付ける。

具体的なポイント

- ☑ 道徳科に**検定教科書を導入**
- ☑ 内容について、**いじめの問題への対応の充実や発達段階をより一層踏まえた体系的なものに改善**
 - 「個性の伸長」「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」「よりよく生きる喜び」の内容項目を小学校に追加
- ☑ **問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫**
- ☑ **数値評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を認め、励ます評価(記述式)**
 - 指導要録の様式例は示すが、内申書には記載せず、入学者選抜に使用しない

※私立小・中学校はこれまでどおり、「道徳科」に代えて「宗教」を行うことが可能

「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳教育への転換により児童生徒の道徳性を育む。

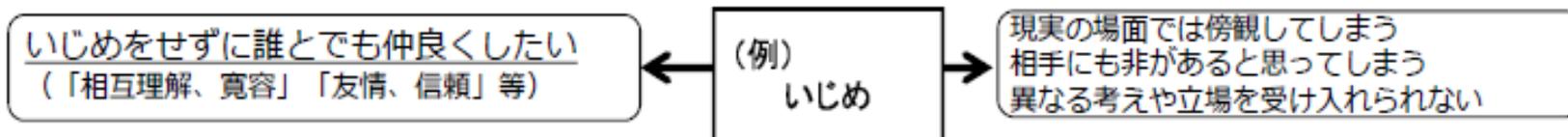
「考え、議論する道徳」への質的転換に向けて

■質的転換に向けて

道徳的価値に迫る読み物の活用や、道徳的価値に関する問題解決的な学習・体験的な学習など、多様な指導方法を取り入れた授業を各学校において展開する。

問題場面から考える学習の(例)

○道徳的価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とできない自分との葛藤から生じる問題
(例)



○複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題
(例)



- ・「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、**自分とは異なる意見をもつ他者と議論することを通して、道徳的価値を多面的・多角的に考える。**
- ・他者との合意形成や具体的な解決策を得ること自体が目的ではなく、**多面的・多角的な思考を通じて、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める。**

道徳教育の目標

第1章 総則

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、**自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと**を目標とする。

道徳科の目標

第3章 特別の教科 道徳

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、



道徳的諸価値の理解を基に、



自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方(人間としての生き方)についての考えを深める学習を通して、



道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を
育てる

道徳的諸価値の理解をもとに

- 内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること【**価値理解**】
- 道徳的価値は大切ではあるが実現は難しいなど人間の弱さなども理解すること

【**人間理解**】

- 道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方は一つではなく、多様であるということを理解すること【**他者理解**】
- 自分との関わりで道徳的価値を捉える。



自己を見つめ

自己を見つめるとは、自分との関わり、つまり、これまでの**自分の経験**や**その時の考え方、感じ方**と照らし合わせながら、さらに考えを深めることである。

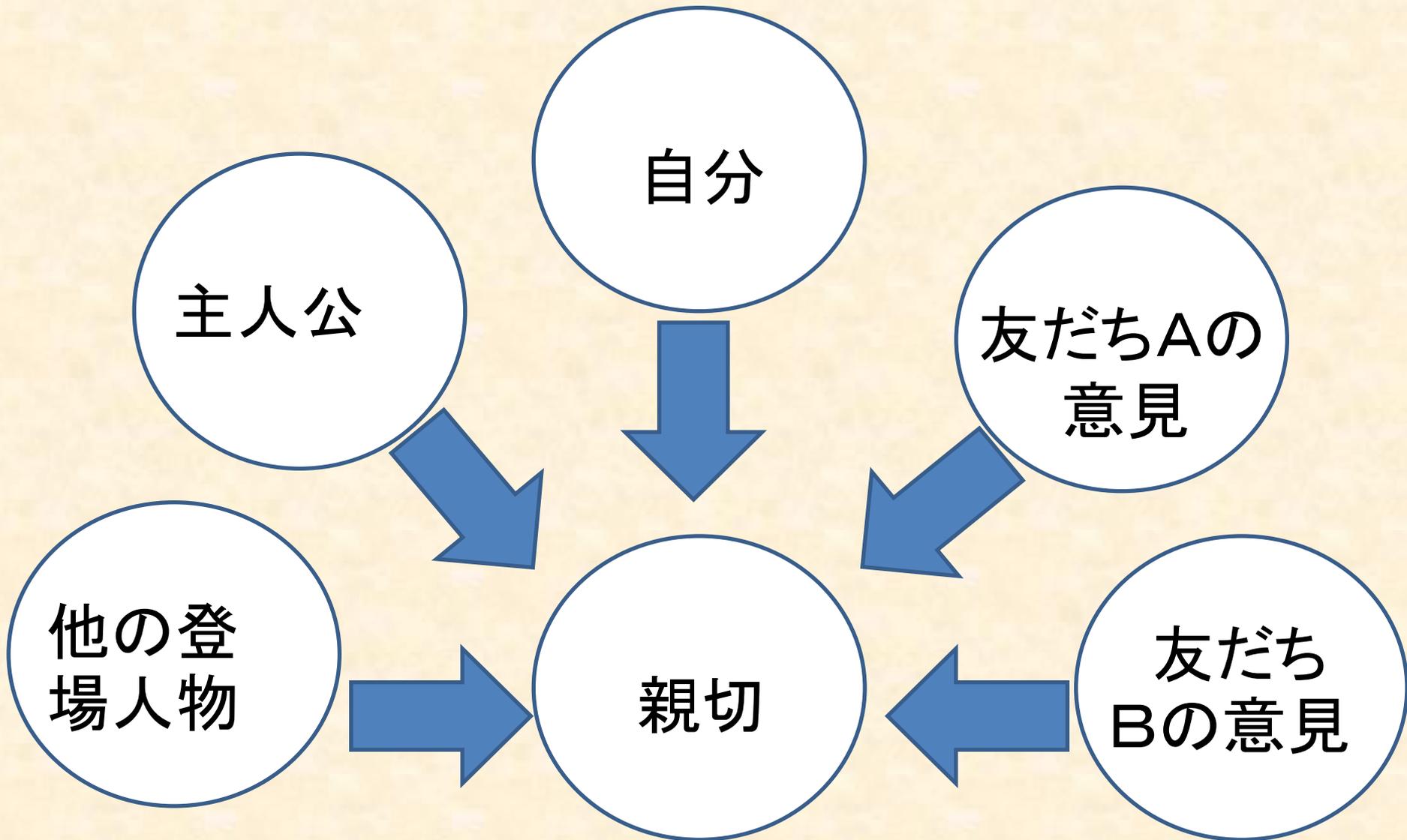




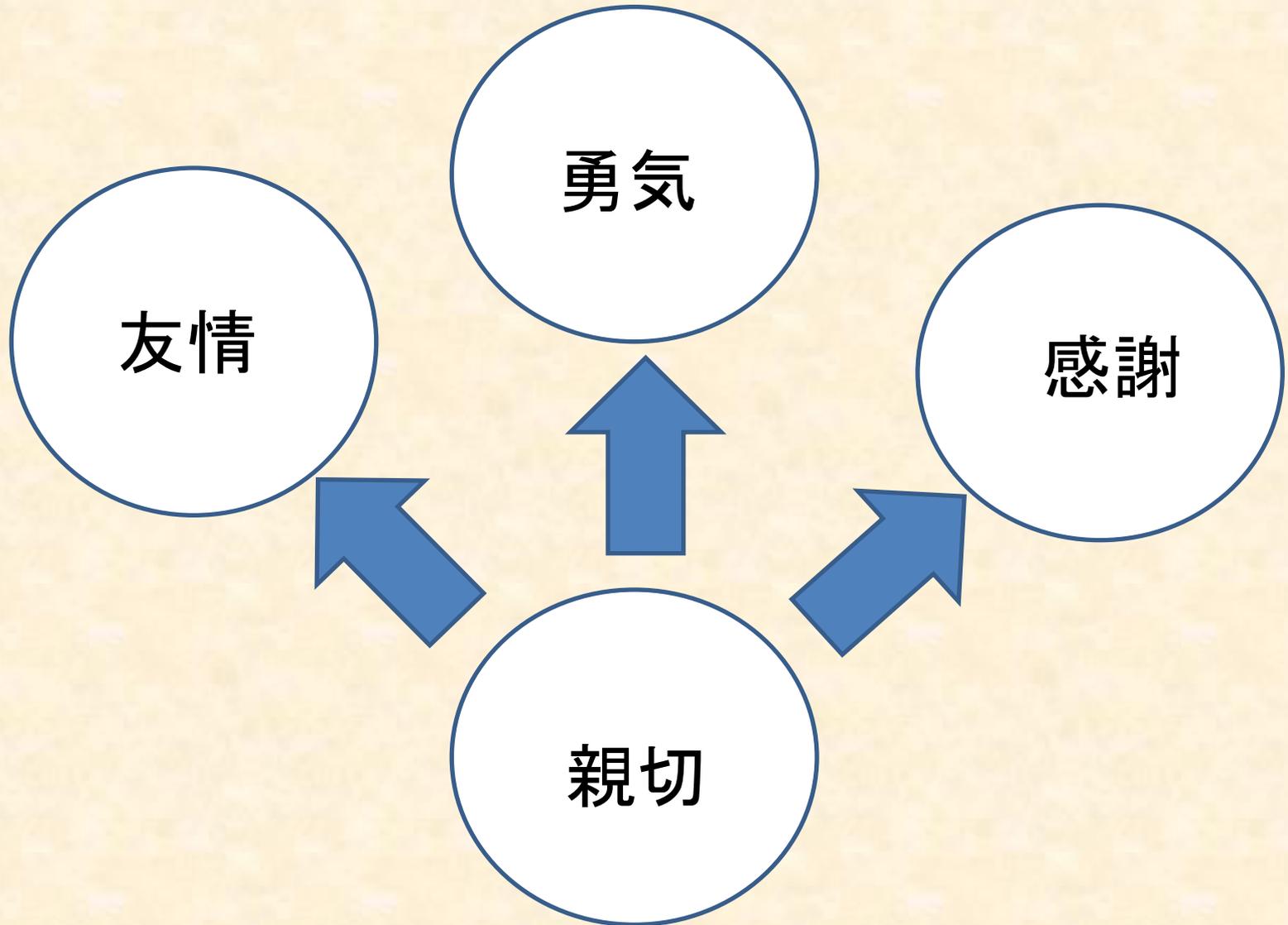
多面的・多角的に考え

- 道徳性を養うためには、生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切。生徒が多様な価値観の存在を前提に、他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えることが必要。
- 物事を多面的・多角的に考える指導のためには、物事を一面的に捉えるのではなく、生徒自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むようにすることが大切。

多面的・多角的に考え



多面的・多角的に考え



6 だから年間指導計画が大事なのです

- その時々で、自分の好きな資料を使って授業を行っていませんか。
- その時の学級の実態で、授業を行っていませんか。



道徳教育の全体計画に基づき、児童の発達段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。

道徳性を養う

ぼくたちの学校は
思いやりルート
です！

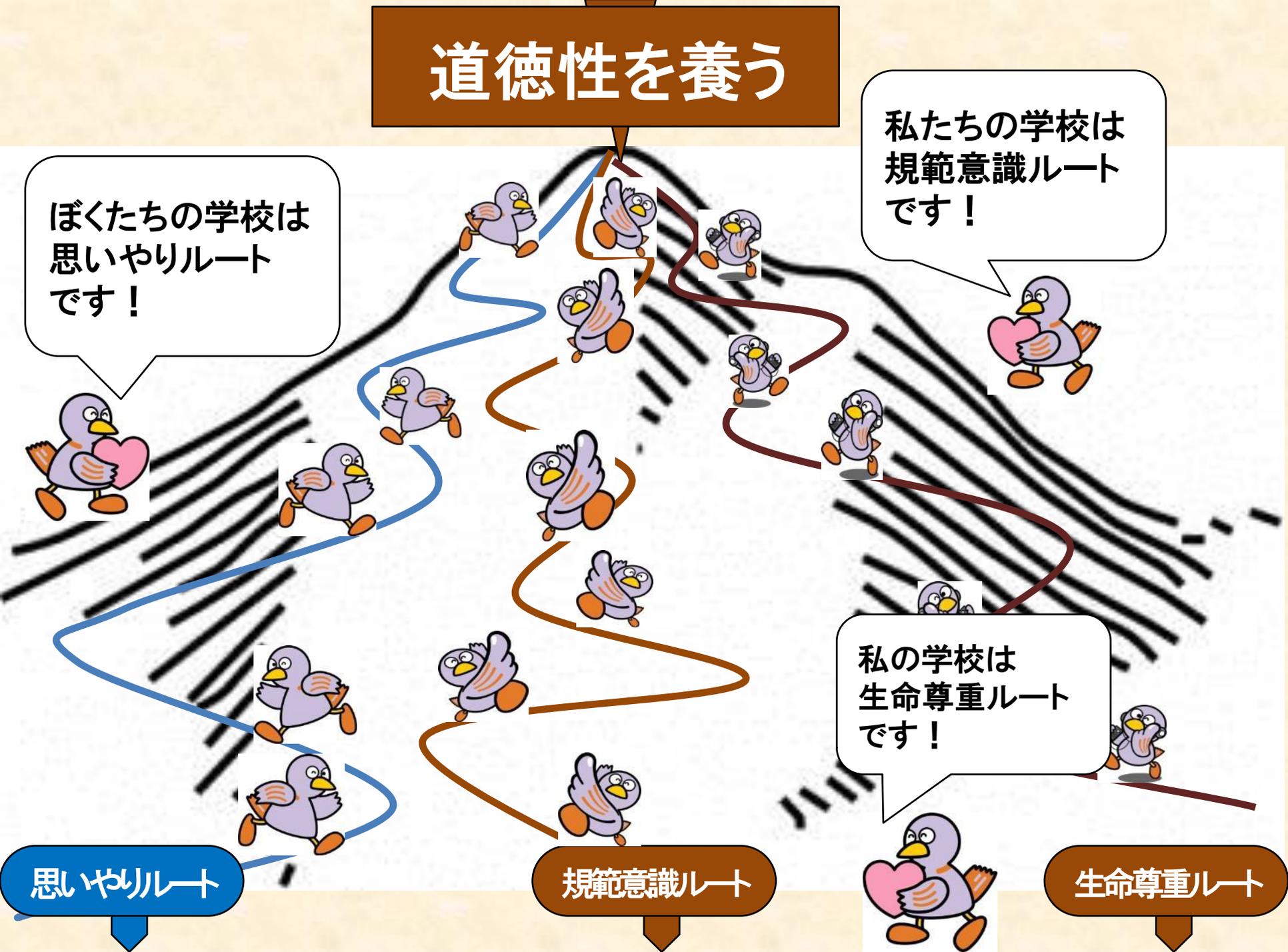
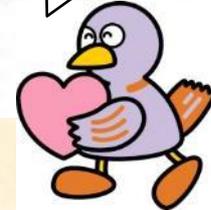
私たちの学校は
規範意識ルート
です！

私の学校は
生命尊重ルート
です！

思いやりルート

規範意識ルート

生命尊重ルート



道徳教育推進教師の役割

- ア 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- イ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に
関すること
- ウ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること
- エ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- オ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- カ 授業の公開など家庭や地域社会との連携に関
すること
- キ 道徳教育の研修の充実に関すること
- ク 道徳教育における評価に関すること など

7 では、授業について考えてみましょう。

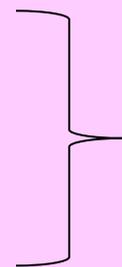
授業を行う上で大切なこと

- 1 明確な目標をもつこと
- 2 そのための具体的な学習を構想すること
- 3 その学習が効果的に行われるようにするための指導を工夫すること

教師の価値観

生徒観

資料観



明確にしましょう

多様で効果的な指導方法

・ねらいの達成に向け、言語活動や多様な表現活動等を通じて、また、実際の経験や体験も生かしながら、児童生徒に考えさせる授業

→ 互いの存在を認め尊重し、意見を交流し合う経験は、児童生徒の自尊感情や自己肯定感を高める上でも有効

・一人一人が見通しをもって主体的に考え、学ぶことができるよう、その内容を学ぶことの意義を理解させたり、学んだことを振り返らせたりする指導

多様で効果的な指導方法

- ・授業1単位時間につき一つの内容項目に限定するのではなく、複数の内容項目を関連づけた指導、一つの内容項目を複数の時間で扱うような指導
- ・ねらいに即して、適切と考えられる場合
道徳的習慣や道徳的行為に関する指導、問題解決的な学習や体験的な学習、役割演技やコミュニケーションに係る具体的な動作や所作の在り方等に関する学習の指導

多様で効果的な指導方法

- ・ 情報モラル、生命倫理などの課題での、問題解決的な学習や討論を深める指導
- ・ 発達段階に合わせた指導
 - 小学校低学年・・・人としてしてはならないことを具体的に指導し、しっかりと自覚させる
 - 中学校・・・人としての生き方や在り方について多角的に考えさせることを重視する

① 読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習

教材の登場人物の心情と自分との関わりについて、多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

② 問題解決的な学習

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問によって、価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

③ 道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面を実際体験してみること、また、それに対して自分ならどういう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための実践的な資質・能力を養うことができる。

何ができるようになるか 何が身についたか

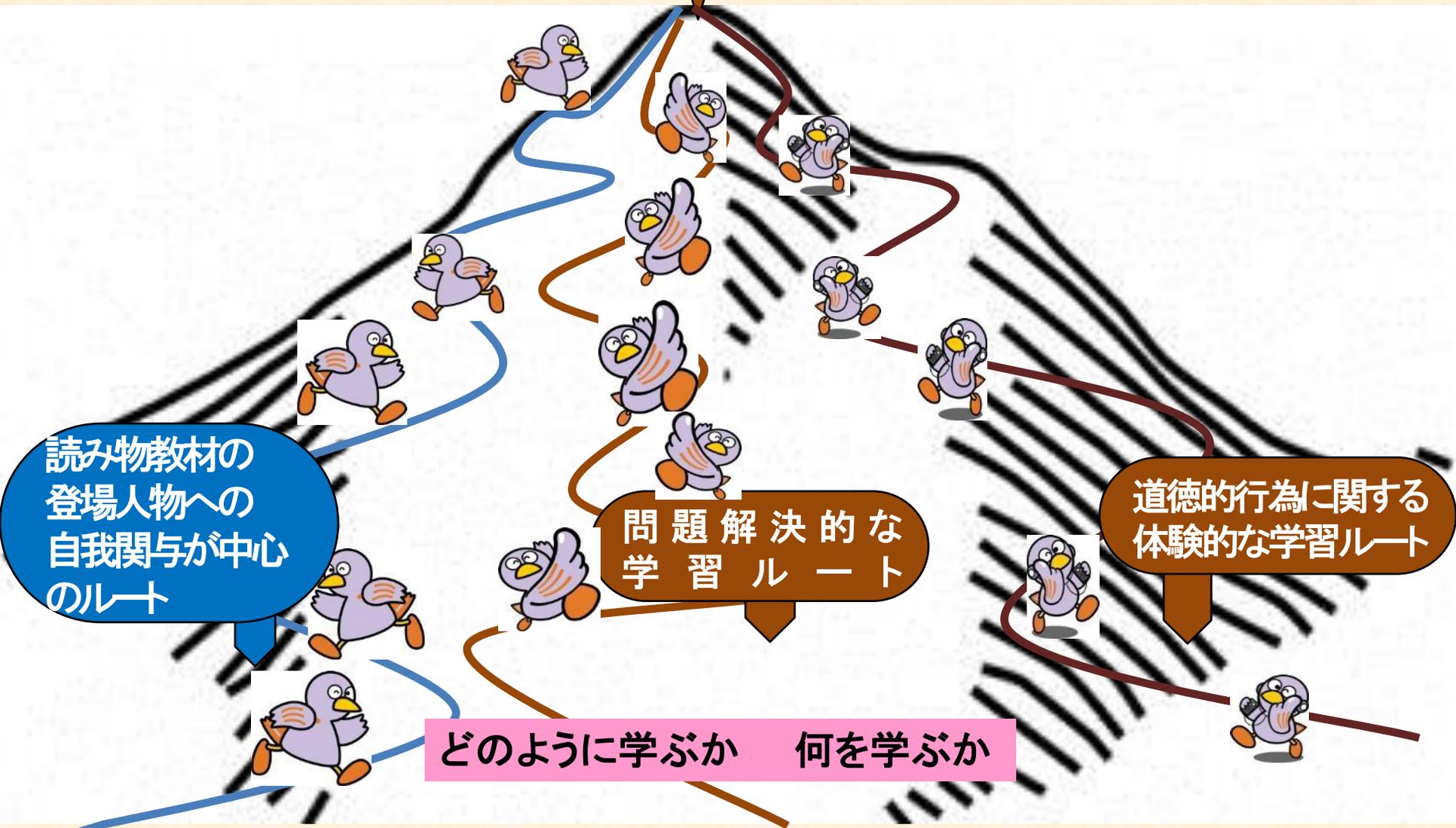
D 生命尊重

読み物教材の
登場人物への
自我関与が中心
のルート

問題解決的な
学習ルート

道徳的行為に関する
体験的な学習ルート

どのように学ぶか 何を学ぶか



8 計画の作成

1 全体計画

平成 年度

道徳教育全体計画

〇〇中学校

日本国憲法 教育基本法
 学校教育法 教育関係法規
 学習指導要領
 埼玉県教育振興基本計画
 埼玉県中学校教育課程
 指導の重点・努力点

校長の方針を受け、道徳教育の重点目標を設定します。

時代や社会の要請

- ・いじめや不登校などの問題行動の解消
- ・生涯学習の推進
- ・グローバル化への対応

学校教育目標

- ・自ら学ぶ生徒
- ・思いやりのある生徒
- ・たくましく行動する生徒

道徳教育の重点目標

- 心豊かに、生き生きと活動できる生徒の育成
- ・正しい判断の上で自主的に行動し、自己の向上に努める。
 - ・思いやりの心を大切に
 - ・文化と伝統に誇りを持ち国際社会の平和と進歩に貢献する。

学校や地域社会の実態

- ・明るく素直な生徒が多い。より豊かな心を育むため自己の個性を見つめ、それを伸ばす努力や地域社会の一員として地域社会の行事等に積極的に参加することが望まれる。
- ・保護者・地域住民の価値観は多様化してきているが学校教育に関する期待は高い。
- ・心身ともに健康で、思いやりの心を持ち、理想の実現に向け、努力し続けて欲しい。

学年経営

学年の連携を密にし、共通の目標を設定し、指導計画を作っていく。

学校・学年の方針を受け、学級における指導計画を別葉として作成することもできます。

学級経営

話し合いをする機会をつくり、生徒の個性について、共感的に理解するなど、互に高め、信頼関係を確立する。

道徳教育の重点目標を受け、各学年の指導の重点を設定します。

各学年重点目標

- 1 学年
- 自立できるよう望ましい生活習慣を身に付ける。
 - ◎他人への感謝の心と思いやりの心を養う。
 - 地域の文化・伝統の理解と郷土や国に愛着をもち、国際社会に生きる国際人としての自覚を養う。
- 2 学年
- ◎自立の精神を重んじ、責任を持って誠実に実行し、その結果について責任をもち、責任感と責任心とする態度を育てる。
 - それぞれの個性や立場を尊重し、互に高め合う態度を育てる。
 - 日本の文化・伝統に誇りを持ち、国際社会に貢献しようとする態度を育てる。
 - ◎困難を乗り越え、自己の成長を促す。

重点目標のうち、特に重視したい目標に◎をつけるなどし、さらなる重点化を図ります。

特別活動

特別活動における体験的な活動を道徳科の時間の指導に密接に関連させ、好ましい人間関係や規範意識を育てる。また、道徳的価値についてその意義を自覚し、実践意欲を育てる。

学級活動

学級や学校の生活の充実と向上を図るために、当面する諸問題の解決を通じて、自己指導力を養う。

自治的・自発的な活動を通じて、学校

各教科	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の目標達成に務める中で道徳的実践力の指導に留意する。 ・体験的な学習や問題解決的な学習を重視する。 ・学習方法や学習活動を工夫し、一人一人の自覚と自立の心の開発と援助に努める。
国語	豊かな言語感覚を養い人間としての生き方を見つめる心を育てる
社会	国際協調の精神・態度を育成する。

2 別葉

道徳教育全体計画別葉 道徳の時間と各教科、領域の指導内容と時期との関連(1年)

××市立△△小学校

内容\月	4月	5月	6月	7月
低学年の 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命を大切にする【D生命の尊さ】 ・友だちと仲良く助け合う【B友情, 信頼】 ・よいことと悪いことを区別してよいことを行う【A善悪の判断, 自律, 自由と責任】 ・約束やきまりを守る【C規則の尊重】 			
1年生にかかわる 学校行事	入学式 【Cよりよい学校生活, 集団生活の充実】 身体測定 【A節度, 節制】【D生命の尊さ】 避難訓練 【A善悪の判断, 自律, 自由と責任】 【D生命の尊さ】	新体力テスト 【A希望と勇気, 努力と強い意志】 家庭訪問 【C家族愛, 家庭生活の充実】	プール開き 【C規則尊重】【D生命の尊さ】	授業参観 【A希望と勇気, 努力と強い意志】 【Cよりよい学校生活, 集団生活の充実】
特別の 教科	「学校のとからもの」 【C伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する 態度】 「えがおであいさつ」 【B礼儀】	「わたしも手つだうよ」 【C家族愛, 家庭生活の充実】 「かくれんぼ」 【C規則の尊重】 「たかしくんの1日」 【A節度, 節制】 「さんぽ」 【D自然愛護】	「マラソン」 【A希望と勇気, 努力と強い意志】 「塙保己一」 【B親切, 思いやり】 「たびに出て」 【B礼儀】 「おそうじ大すき」 【C勤労, 公共の精神】	「黄色いベンチ」 【A節度, 節制】 「虫が大すき」 【D自然愛護】
国語	「なかよし」 【B友情, 信頼】 「みんなとたのしく」 【B礼儀】	「おはなしききたいな, よみたいな」 【B礼儀】 「はなしましよう, ききましよう」 【B礼儀】	「けむりのきしゃ」 【B親切, 思いやり】 【D感動, 畏敬の念】 「なにが, かくれているのでしょうか」 【D自然愛護】	「おおきなかぶ」 【B友情, 信頼】 【C勤労, 公共の精神】
	「10までのかず」	「なんばんめ」	「ふえたりへったり」	「ひきざん(1)」

4 配当時数一覧表

○ 全学年を一覧にし、内容項目を扱う月を示す例

視点	内容項目		第1学年		第2学年		第3学年	
			時数	時期	時数	時期	時数	時期
A 主として自分自身に関すること	(1)	自主、自律、自由と責任	2	6月・10月	1	5月	1	4月
	(2)	節度、 <small>節制</small>	1	4月	1	10月	2	5月・11月
	(3)	向上心、 <small>個性の伸長</small>	1	7月	2	4月・11月	1	10月
	(4)	希望と勇気、克己と強い意志	2	5月・1月	2	10月・11月	1	9月
	(5)	真理の探究、創造	1	12月	1	9月	1	7月
B 主として人との関わりに関すること	(6)	思いやり、感謝	3	5月・11月・2月	3	6月・11月・2月	3	4月・9月・1月
	(7)	礼儀	1	1月	2	4月・12月	1	6月
	(8)	友情、 <small>信頼</small>	1	6月	1	5月	2	5月・10月
	(9)	相互理解	2	9月、12月	1	11月	1	2月
C 主として社会や集団に関すること	(10)	遵法精神、公德心	1	10月	2	9月、3月	1	11月
	(11)	公正、公平、社会正義	3	5月、9月、3月	3	6月、12月、2月	3	7月、10月、2月
	(12)	社会参画、公共の精神	1	11月	1	10月	1	9月

配当する時数と時期。

学校の重点目標に関わる内容を多く配当する。

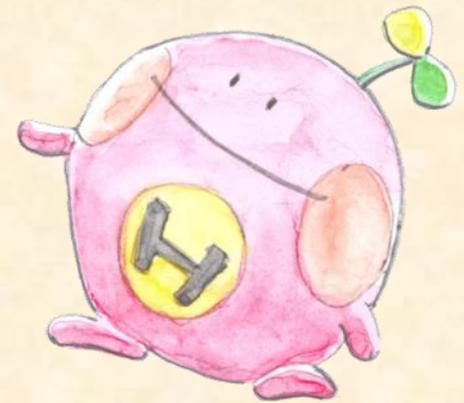
他学年とのつながりが明確となり、中学校3カ年でとらえた道徳科の指導ができる。

6 年間指導計画

学年の基本方針		1 様々な集団の中で自分の役割を自覚して集団生活の充実を図る。 2 教材を通して、自分とのかかわりの中で考え、自己の生き方について考えを深める。		
月	主題名	節度ある生活	内容項目	A節度、節制
	ねらい	生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、自ら節度を守り節制に心掛けようとする態度を育てる。		
	教材名	流行おくれ	出典	読み物資料とその利用 「主として自分自身のこと」
	主題構成の理由	生活を振り返り、自ら節度を守り節制に心がけることについて、主人公を通して考える。		
	学習指導過程	1 児童の流行に関することについて話し合う。 2 教材「流行おくれ」を読んで話し合う。 (1) みどりと社会科見学について話をするまゆみは、どんな気持ちだったか。 (2) 母にたしなめられたまゆみはどんなことを考えたか。 (3) わたるに「ゲームの本を返して」と言われたまゆみは、どんな気持ちだったか。 (4) あなたは、しーんとした自分の部屋を見回すまゆみが、どんなことを思っていたと思いますか。 3 節度、節制について、心掛けていることや実行している事柄について、今後の自分の生活について考える。 4 校長の話を聞く		
4	他の教育活動との関連	学習規律の指導（常時）、学級活動（2）基本的な生活習慣との形成		
	備考	校長が説話を行う。		
	授業後の改善点	・指導の時期を1学期の後半にずらした方がよい。		

評価について

○児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。



解説より

○数値ではなく記述式

○他の児童生徒との比較による相対評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価

○個々の内容項目ごとではなく、大くくりなまとまりを踏まえた評価

○現在の指導要録の書式における「総合的な学習の時間の記録」「行動の記録」及び「総合所見及び指導上参考となる諸事項」などの既存の欄も含めての見直し

これらを前提に検討し、教師用指導資料集の作成や指導要録の改正

→各学校においては、これらに基づき適切に評価を行う

○道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握

- 他者の考え方に触れ、自律的に思考する中で一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
- 多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

○ 児童生徒が**一面的な見方から多面的・多角的な見方**へと発展させているか

- ・ 道徳的な問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え考えようとしていることや、自分と違う意見や立場を理解しようとしていることに着目
- ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることに着目

○ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で
深めているかどうか

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え
自分なりに具体的にイメージして理解しようとして
いることに着目
- ・自らの生活や考えを見直していることがうかがえる
部分に着目
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他
者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深
めているかに着目
- ・道徳的価値を実現することの難しさを自分事として
捉え、考えようとしているかに着目

○道徳科における**学習状況の把握**

- 学期や年間を通じて、当初は道徳ノート等に感想をそのまま書いたただけであった児童生徒が、回を追うごとに、主人公に共感したり、自分なりに考えを深めた内容を書くように変化が見られたり、既習の内容と関連づけて考えている場面に着目
- 一単位時間の授業だけでなく、児童生徒が長い期間を経て、多面的・多角的な見方へと発展していたり、道徳的価値の理解が深まったりしていることに着目

○ 発言が多くない児童生徒や考えたことを文章に記述することが苦手な児童生徒

- 教師の話や他の児童生徒の話に聞き入り考えを深めようとしている姿に着目
- 発言や記述ではない形で表出する児童生徒の姿に着目

子どもたちの未来が見えますか。



ご静聴有り難うございました。